

## 昭和63年度・北海道に発生した森林害虫

北海道森林昆虫談話会

(1989.6.1 受理)

### はじめに

昭和63年度に北海道で発生した森林昆虫の発生状況について、北海道林務部・北海道営林局・道内各営林支局・北海道林木育種場・山林所有者からの発生報告、被害同定依頼、それに北海道立林業試験場・森林総合研究所北海道支所の調査観察をもとにして、第4回北海道森林保護会議（平成元年3月9～10日開催、24回北海道森林昆虫談話会）でとりまとめた。

### 主な昆虫の発生動向

昭和63年度の森林昆虫の発生概要は表1～7に示した。表は過去に北海道で発生したことのある主な昆虫名・加害樹種をあげ、当該年度に発生した発生地・発生区域面積（ha、苗畑はm<sup>2</sup>）と発生様相を記載した。

**苗畑の昆虫：**トドマツノハダニ・ヒメカサアブラムシなどの発生が一部の苗畑で認められ、この年はマイマイガの多発生でトドマツ苗木にも幼虫の食害がみられた。

**吸汁性の昆虫：**トドマツ・アカエゾマツに寄生するオオアブラムシ類の発生は、新植造林面積の少ないことなどから、比較的になく防除面積も少ない。しかし幼齢造林地の主要な害虫であることに変わりはない。佐呂間町では昨年が続いてヨーロッパトウヒにエゾマツオオアブラムシの寄生があり、防除を行なった。

**虫こぶ形成昆虫：**エゾマツカサアブラムシは各地のエゾマツ造林地で見られるが、特に多く発生している所は無いようである。エゾマツシントメタマバエは幼虫が新芽に寄生して、扁平で丸い虫こぶを造る。苫小牧地方などの幼齢造林地で散見されるが、なれないと見落とす（北海道樹木病害虫図鑑135～136ページを参照）。

**食葉性の昆虫：**ハバチ類では単木的発生であるがトウヒハバチが十勝地方で分布を確認。エゾマ

ツハバチはこれまで生息が確かめられている江別市野幌のほか函館市でアカエゾマツ（7～23年生）に発生していることが認められた。ミスジヒメカラマツハバチは昨年が続いて浦幌林務署管内で発生が認められた。広葉樹のハバチ類の発生は報告がなく、少なかったものと思う。オオアカズヒラタハバチは由仁町で昭和60年に発生が認められてから、継続して生息が確認されていたが、当年は食害分布区域が拡大、隣接した千歳市区域にも発生が認められた。

カラマツイトヒキハマキは61年度から引き続いて道央地方で多発している。モミコスジオビハマキは62年度の発生と比較して減少傾向である。

トドマツアミメヒメハマキ・コメツガクチブサガなどが混生して石狩・空知・留萌・上川地方のトドマツ造林地に多発して、新葉を食害している。赤変する頃には幼虫が地面に落下することから、種の確認はおこなわれている。マイマイガは61・62年の発生に続いて、道央地方に広く発生し、道内の発生記録として最大の区域面積（合計156,000ha）を示した。なおカラマツ林の食害も多く目についた（約4,700ha）。コガネムシ類の発生は共和町をのぞいて少ないようであった。

**新梢の穿入昆虫：**マツツマアカシムシ・マツノシンマダラメイガが道南の江差町クロマツ海岸林で新梢部を加害した。

**球果の穿入昆虫：**発生の報告はないが、カラマツタネバエの加害は各地で見られるようで、また他に何種か球果に入る昆虫があるようである。ミズナラ球果を林地に直接まく造林法が試行されているが、これらを加害する昆虫の生態などは不明な点も多く、今後研究を進める必要がある。

**穿孔性の昆虫：**トドマツ・エゾマツの穿孔虫は天然林などで累積された枯損被害をみるが、特に著しい被害発生はなかったようである。そのほかの穿孔虫についても特に発生したものはなかった。

なお、マイマイガの発生地でカラマツの食害木 する必要があると思われる。  
はカラマツヤツバキクイムシの今後の発生に注意 (森林総合研究所北海道支所 小泉 力)

## 昭和63年1～12月に発表された関係文献

- 秋田米治：羊ヶ丘実験林の造網性クモ類と捕獲昆虫類—エゾマツ幼齡林—，日林北支論36：129～130  
 ————：高さ20mのトドマツの上部から採取されたクモ，森林保護205：20
- 有沢 浩・井口和信・芝野伸策：マツカレハ越冬幼虫の死亡率—大発生年と終息年について—，日林北支論36：131～133
- 石本雄一・原 秀穂：北海道におけるミスジヒメカラマツハバチの生態，北方林業40(1)：7～12
- 今田秀樹・鈴木重孝：カラマツヤツバキクイムシの発育と温度，62年度林業技術研究発表論：118～119  
 ————・—————：カラマツヤツバキクイムシの成虫と幼虫の行動，北方林業40(5)：1～3
- 大場貞男・石塚森吉・菅原セツ子・金沢洋一：ミズナラ堅果のサイズと虫害との関係，日林北支論36：45～47  
 ————・—————・—————・—————：ミズナラ堅果の虫害駆除の2・3の試み，99日林論：281～282
- 尾崎研一：オオアズヒラタハバチを食べるオオアシトガリネズミ，森林保護203：5  
 ————：マイマイガの大発生，森林保護207：33
- ・鎌田直人・吉田成章：エゾマツカサアブラムシのゴールの密度変動と分布様式，応動昆32(4)：272～276
- 上条一昭：スズメバチはなぜ刺すか—その生態と刺傷害，林材安全471：3～10  
 ————：ハチに刺されないために，山づくり317：12～13
- 小泉 力：北海道の広葉樹林に発生した昆虫，森林保護206：32  
 ————・串田 保・三橋 淳：昆虫寄生性線虫による根切虫防除圃場試験（予報），日林誌70(9)：417～419  
 ————：造林木の虫害，森林総合研究所北海道支所 研究80年，22～23
- Schafer, P. W.・池部恵三・東浦康友：Gyps moth, *Lymantria dispar* (L.), and its natural enemies in the Far East (especially Japan). Annotated bibliography and guide to the literature through 1986 and host plant list for Japan. Delaware Agricultural Experiment Station Bulletin 476, 160 pp.
- 館 和男：道内におけるスギノアカネトラカミキリの加害形態，62年度林業技術研究発表論：124～125
- 千葉 博：北後志管内におけるマイマイガの被害と防除について，62年度林業技術研究発表論：112～113
- 西谷内敏美・長谷川強・和島武光・大瀬敬志：蜂刺され防止対策について，旭川営林局・34回業務研究発表集録62年度：208～211
- 東浦康友：マイマイガの発生に注意，山づくり「昭和62年度十勝地域版」：19  
 ————：カラアツハラアカハバチの産卵にたいするカラマツ類の抵抗性，日林誌70：461～463
- 平賀定夫・高橋清志：山火跡地における穿孔虫の発生状況，帯広営林支局・昭和62年度業務研究発表集録：72～75
- 平間勝広・藤村文夫・高橋 等：シラカンバ幼齡林におけるシラカバナガタムシの発生状況の実態について，62年度林業技術研究発表論：120～121
- 広沢武司・多田秋夫：蜂刺され災害防止について，旭川営林支局・34回業務研究発表集録62年度：193～197
- 古田信行・岡山 誠・関根和威・伊藤雅之：カラマツヤツバキクイムシの発生と葉剤防除試験について，62年度林業技術研究発表論：122～123
- 北海道森林昆虫談話会：昭和62年度・北海道に発生した森林害虫，北方林業40(8)：22～28
- 北海道林務部森林整備課：マイマイガの発生予想と防除，山づくり315：13～14
- 前藤 薫：タイ国におけるチークの穿孔性害虫ビーホールボーラー，森林防疫37(4)：13～17  
 ————：Systematic studies on the tribe Meteorini (Hymenoptera, Braconidae) from Japan III. The *hirsutipes* group of the genus *Meteorus* HALIDAY, *kontyû*, Tokyo 56(2)：321～329  
 ————：Systematic studies on the tribe Meteorini (Hymenoptera, Braconidae) from Japan IV. The groups of *Meteorus albizonalis* and *M. micropterus* *kontyû*, Tokyo 56(3)：581～589  
 ————・吉田成章：Characteristics of the oviposition of the red-headed spruce web-spinning sawfly, *Cephalcia isschikii* TAKEUCI *Appl. Ent. Zool.* 23(3)：361～362

———：トウヒ属の食葉性害虫オオアカズヒラタハバチ，林試場報290：2～3

森三千雄・浜田 満・影山勇治・大野修一・北川善一：カラマツヤツバキクイムシの発生消長と薬剤防除試験について，62年度  
林業技術研究発表論：114～115

森安 章：蜂の誘引捕殺について，旭川宮林局・34回業務研究発表集録62年度：181～186

吉田成章・前藤 薫：オオアカズヒラタハバチ幼虫の食害量と発育速度，応動昆32(4)：324～327

## 昭和63年度・森林昆虫の発生概要(北海道)

営署＝営林署(国有林)，林署＝林務署(道有林)

表一 1 苗畑に発生した昆虫

種類	加害樹種	発生地(市町村，発生面積㎡)，摘要
トドマツノハダニ	トドマツ	釧路営署(鶴居村18200，厚岸町3900)
ヒメカサアブラムシ	トドマツ	本別営署(本別町500)
ヨトウムシの1種		釧路営署(鶴居村400，標茶町23000)
マイマイガ	トドマツ	上芦別営署(芦別市87000)

ほかにコガネムシ幼虫の加害もあると思われるが，今回は報告がなかった。

表一 2 オオアブラムシ類の発生および防除面積(ha)

所 管	トドマツオオアブラムシ (トドマツ)		エゾマツオオアブラムシ (アカエゾマツ)		摘 要
	発生面積	防除面積	発生面積	防除面積	
北海道局	1560.00	558.00	895.00	489.00	国有林の防除は前年の発生調査にもとづいて要防除地を当年に実行した。
函館支局	139.00		25.00		
旭川支局			8.63		
帯広支局			366.22		
北見支局					
小計	1699.00	558.00	1294.85	489.00	
道有林	381.60	365.44	386.85	351.52	
民有林	209.00	204.68	64.73	28.83	
小計	590.60	570.12	451.13	380.35	
合計	2289.60	1128.12	1745.98	869.35	

表一 3 吸汁性の昆虫

種類	加害樹種	発生地(市町村，発生面積ha)，摘要
スギノハダニ	スギ	昭和54年，道南地方で多発して以来，発生報告はない。
トドマツノハダニ	トドマツ	時々，単木的な発生を見るが，多く発生している所はないようである。
スギマルカイガラムシ	トドマツ	発生を認めない。被害葉は黄色い斑点状の吸い跡が残る。
トドワタムシ	トドマツ	針葉の基部に寄生，開葉期に寄生部分の新葉がねじれる。
トドノネオオワタムシ	トドマツ (ヤチダモ)	トドマツからヤチダモに移住する産性虫を雪虫と呼ぶ。当年はヤチダモの葉に寄生して鳥巣状の偽虫えいを造っているのが各地で観察された。
エゾマツオオアブラムシ	ヨーロッパ トウヒ	佐呂間町(2.96) 防除面積(2.96)
カラマツオオアブラムシ	カラマツ	報告なし。
カラマツカサアブラムシ	カラマツ グイマツ	報告はないが，各地で散見される。針葉に寄生して白色の蠟物質をだしているのが判別しやすい。

表一4 虫こぶ形成昆虫

種類	加害樹種	発生地(市町村, 発生面積ha), 摘要
ヒメカサアブラムシ	アカエゾマツ トドマツ	時々みられるが, 多く発生している所はないようである。
エゾマツカサアブラムシ	エゾマツ	各地のエゾマツ林で見られ, 単木的に多く寄生しているものもあるが, 全体的には低密度の発生のようなものである。
トドマツノタマバエ	トドマツ	報告はないが太平洋岸などで発生が続いているものと思う。
マツバノタマバエ	クロマツ	道南地方・低密度。
スギタマバエ	スギ	報告はないが, 木古内・八雲など低密度の生息をしている。
エゾマツシントメタマバエ	エゾマツ アカエゾマツ	苫小牧地方などに散見された。
クリタマバチ	クリ	報告なし。
カシワハナフシ	カシワ	被害報告はないが, 道東地方などの海岸林で発生がみられる。

表一5 食葉性の昆虫

種類	加害樹種	発生地(市町村, 発生面積ha), 摘要
トウヒハバチ	トウヒ類	新得町, 単木の発生
エゾマツハバチ	アカエゾマツ	函館林署(函館市24.80)
カラマツキハラハバチ	カラマツ	報告なし。
カラマツハラアカハバチ	カラマツ	報告なし。
ミスジヒメカラマツハバチ	カラマツ グイマツF <sub>1</sub>	浦幌林署(浦幌町71.68, 白糠町16.96)
ハンノキハバチ	ハンノキ類	報告なし。
ポプラハバチ	ポプラ類	報告なし。
オウトウナメクジハバチ	サクラ類	報告なし。
シラカバノクロボシハムグリハバチ	カンバ類	報告なし。
ハムグリハバチの1種	シナノキ	報告なし。
キイロアシブトハバチ	カンバ類	報告なし。
オオアカズヒラタハバチ	エゾマツ アカエゾマツ	岩見沢営署(由仁町38.00), 恵庭営署(千歳市5.72) 当年の被害発生地はいちじるしく拡大。
カラマツツツミノガ	カラマツ	報告なし。
カラマツイトヒキハマキ	カラマツ	旭川林署(上川町131.68, 愛別町41.60, 当麻町236.96, 旭川市179.04, 東川町69.08, 南富良野町149.28)「合計807.64」 ミスジヒメカラマツハバチ混生10%, 道央地方で発生が続いている。
モミコスジオビハマキ	トドマツ	当別町12.76, 美瑛市52.32, 雨竜町85.64, 「合計150.72」 62年度に比較して減少傾向。新梢の葉をつづり合わせ, その中で新葉を食害する。
マツアトキハマキ	トドマツ	次の2種と混生。
トドマツアミメヒメハマキ	トドマツ	滝川林署(赤平市36.64, 新十津川町31.68), 名寄林署(士別市65.12)「合計133.44」
コメツガクチブサガ	トドマツ	札幌営署(厚田村41.00, 当別町55.00), 上川営署(上川町130.00), 幌加内営署(深川市3.00), 留萌林署(留萌市4.00), 旭川市307.12, 当麻町781.00, 上川町54.48, 「合計1375.60」 トドマツアミメヒメハマキとコメツガクチブサガは混生して発

		生していたものようで、ほかにマツアトキハマキなどハマキガ類も混生していたものと思われる。
マエアカスカシノメイガ	ヤチダモ	報告なし。発生は少ない様子。
オオクシヒゲシマメイガ	ミズナラ	報告なし。時々大発生してミズナラの全葉を食害する。
ミスジツマキリエダシヤク	カラマツ	報告なし。食害時期が8月頃から目につくようになり、枯死に至ることがある。
オオチャバネフユエダシヤク		報告なし。トドマツ・カラマツなどに多発することがある。
チャバネフユダシヤク		報告なし。イタヤカエデ・ミズナラ・その他の広葉樹に多く発生することがある。
ナミスジフユナミシヤク	ミズナラ	報告なし。多発することがある。
ブナアオシヤチホコ	ブナ	報告なし。大面積に多発することがある。
セグロシヤチホコ	ドロノキ	佐呂間町0.72
マツカレハ	マツ類	報告なし。
ツガカレハ	トドマツ トウヒ類	美幌町0.28 佐呂間町4.08
ノンネマイマイ	(針)	報告なし。
ヤナギドクガ	ヤナギ類	札幌市、単木的な発生で全葉食害。
マイマイガ	ギンドロ ミズナラ シラカンバ ハンノキ その他広 カラマツ トウヒ類 トドマツ	<p>檜山営署(江差町70.00)、倶知安営署(倶知安町70.00)、余市営署(小樽市650.00,余市町900.00,古平町422.00,積丹町470.00,仁木町720.00,赤井川村638.00)、札幌営署(厚田村252.00)、岩見沢営署(浜益村236.00,岩見沢市107.00,三笠市470.00,栗沢町12.00)、夕張営署(栗山町6,100.00,夕張市34,700.00)、芦別営署(芦別市1.00)、上芦別営署(芦別市10,208.00)、厚賀営署(新冠町2.51)、留萌営署(増毛町7,100.00,留萌市7,830.00) 羽幌営署(羽幌町11,090.00)、古丹別営署(苫前町16,300.00)、深川営署(沼田町3,960.00,北竜町2,980.00,深川市550.00)、幌加内営署(深川市770.00,幌加内町21,020.00)、士別営署(士別市3,540.00,和寒町1,770.00)、旭川営署(旭川市300.00,愛別町5.00)「国有林計 133,243.51」</p> <p>留萌林署(増毛町13,032.00,留萌市1,679.00,小平町5,591.00,苫前町80.00)「道有林計 20,382.00」</p> <p>蘭越町55.90,共和町704.80,ニセコ町19.88,積丹町47.84,余市町184.92,留寿都村6.64,真狩村5.32,赤井川村221.04,古平町64.76,仁木町418.52,小樽市45.92,京極町29.32,倶知安町39.12,岩内町32.12,泊村60.96,神恵内47.88,穂別町55.45,鶴川町46.78,厚真町70.52,千歳市10.16,浜益町9.00,三笠市24.01,岩見沢市9.12,栗沢町38.80,美唄市66.92,雨竜町5.77,風連町9.26,増毛町10.32,「民有林計2,341.05」「合計155,966.56」</p>
キバネセセリ	ハリギリ	報告なし。
オオスジコガネ	トドマツ	共和町6.48
スジコガネ		
ハンノキハムシ	ハンノキ類	報告なし。発生は少ない様子。
テントウノミハムシ	ヤチダモ	報告なし。
アカタマゾウムシ	ヤチダモ	報告なし。

表一6 新梢・球果の穿入昆虫

種類	加害樹種	発生地(市町村・発生面積ha), 摘要
カラマツタネバエ	カラマツ	報告はないが、各地に見られるようで、また他に何種か球果に穿入している昆虫が有り、現在、道立林試で研究を進めている。
マツツマアカシムシ	クロマツ	檜山営署(江差町55.00)
マツノシンマダラメイガ	クロマツ	檜山営署(江差町55.00), 海岸林で、新梢部を加害。 浦河営署(えりも町1.54)
シギゾウムシ類	カシワ ミズナラ	発生報告なし。球果に穿入食害する。種類・生態について不明なことが多い。

表一7 穿孔性の昆虫

種類	加害樹種	発生地(市町村・発生面積ha), 摘要
ヒゲジロキバチ	トドマツ	報告なし。樹勢のあまり良くない樹幹に産卵、幼虫は材中を加害する。
トドマツノキバチ	トドマツ エゾマツ	発生報告なし。一世代を経過するのに2~3年を要する。樹幹に産卵され、幼虫は辺材部を加害する。
コルリキバチ	トドマツ エゾマツ	上記のキバチと同様に樹幹部を加害する。新築住宅の柱材などから成虫が出現することがある。
キマダラコウモリガ	スギ	乙部営署(乙部町, 被害本数わずか)
コスカシバガ	サクラ	報告はないが、公園地などで散見される。
ヒノキカワモグリガ	スギ ヒノキ, 他	札幌市(森林総研)
シラカバナガタマムシ	シラカンバ	報告はないが、道央・道東地方で見られるもよう。被害は幼齢木に多く認められ、加害された樹幹部は著しく肥大・変色する。
スギノアカネトラカミキリ	スギ	松前林署(福島町16.64, 松前町84.32, 推定実発生面積12.48), 道立林試・道南支場において分布・生態について調査を進めている。
マルクビヒラタカミキリ	カラマツ	報告なし。
シラフヨツボシヒゲナガカミキリ	トドマツ エゾマツ	報告はないが、道内の天然林などで見られる枯損木には加害の跡が認められる。
トドマツキボシゾウムシ	トドマツ	報告なし。
マツキボシゾウムシ	マツ類	札幌市, 単木的な発生。
ヤナギシリジロゾウムシ	ヤナギ類	報告はないが、道央地方の河川敷などのヤナギで時々見られる。
カラマツコキクイムシ	トドマツ	報告なし。春に乾燥した日が長く続くと、造林木は衰弱する。これに低密度で寄生、多くの林木を枯らすことがあるので注意が必要である。
トドマツククイムシ	トドマツ	報告なし。天然林などの枯損木に被害跡がみられる。
エゾマツククイムシ	エゾマツ	〃
ヤツバキクイムシ	エゾマツ アカエゾマツ	〃
カラマツヤツバキクイムシ	カラマツ	報告なし。マイマイガの発生跡地では林木は衰弱していると思われるので本種の発生に注意。